

当社グループは「2016～2020年度グループ中期経営計画」を策定し、素材系事業・機械系事業・電力事業の3本柱による成長戦略を一層深化させ、盤石な事業体を確立させる新たなビジョンである「KOBELCO VISION “G+” (ジープラス)」への取組みをスタートさせました。具体的には、輸送機の軽量化やエネルギー・インフラなど中長期的に伸張する成長分野に経営資源を集中し、当社グループ独自の付加価値を更に高め、競争優位性を発揮していくことで事業を拡大・発展させるとともに、社会への貢献を目指します。最終年度である20年度には、「ROA※5%以上、D/Eレシオ※1倍以下の堅持」を目標とし、財務の健全性を確保しつつ、収益性(資本効率)の向上を実現します。

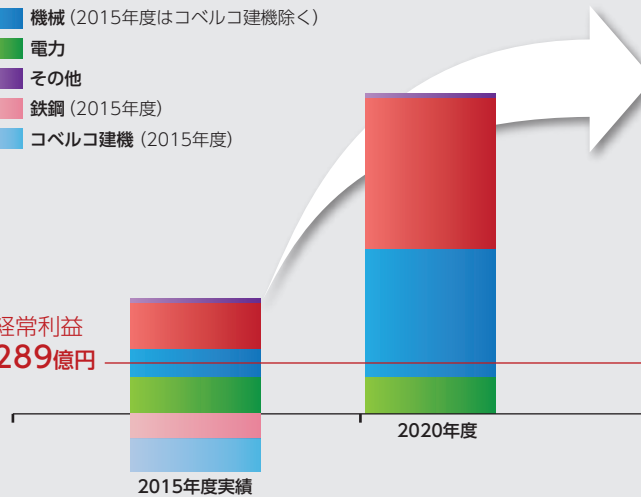
連結配当性向は15～25%を目安としつつ、当社の財政状態、先行きの資金需要、各期の業績および配当性向等を総合的に勘案して決定します。当面の間は、将来の成長のために必要な投資等を優先することで収益力の向上を図り、グループ全体での企業価値、ひいては株主共同の利益の向上に努めます。

※ROA:経常利益÷総資産  
※D/Eレシオ:有利子負債÷自己資本

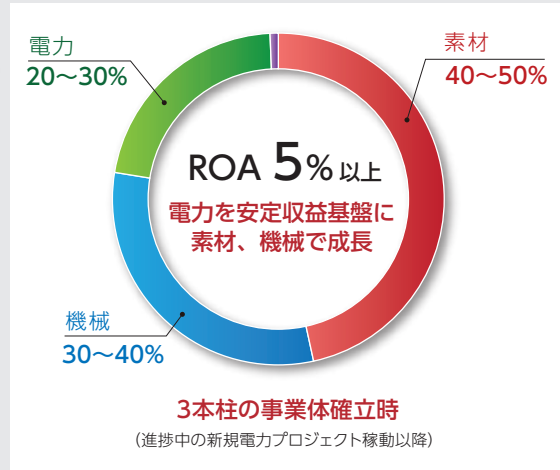
## 業績イメージ

- 素材 (2015年度は鉄鋼除く)
- 機械 (2015年度はコベルコ建機除く)
- 電力
- その他
- 鉄鋼 (2015年度)
- コベルコ建機 (2015年度)

経常利益  
289億円



目指すべき事業ポートフォリオ像 (事業別利益構成)



## 3本柱の事業成長戦略

### 素材

- ①輸送機軽量化への取組み (自動車分野)
  - 超ハイテン・アルミ素材の競争力強化、異材接合技術等によるマルチマテリアル化提案によるシェア拡大
  - 競争力強化、成長に向けた1,000億円規模の戦略投資の検討
- (航空機分野)
  - チタン・アルミ等の素材の上工程(溶解、鑄造/鍛造)強化
  - チタン・アルミ等の素材の上～下工程一貫体制の確立
    - ・下工程(機械加工、表面処理、塗装)参入・拡大に向けた研究開発の推進
- ②鉄鋼事業の収益力強化
  - 加古川製鉄所への上工程集約(2017年度完了予定)
  - 設備投資・生産現場でのコスト削減

### 機械

- ①エネルギー・インフラ分野への取組み
  - 大型ターボ圧縮機市場への参入による非汎用圧縮機事業の拡大
  - 海外展開、商品競争力強化、生産基盤強化による汎用圧縮機事業の拡大
  - 水素関連ビジネスでの差別化技術確立による競争力強化
    - ・水素ステーションテストセンター新設
    - ・再生可能エネルギーを利用した実証実験
- ②建設機械事業の収益力強化
  - 中国ショベル事業の生産能力見直し・拠点の機能見直しによる収益力強化
  - 欧米・インドでの拡販
  - 建機・クレーン事業統合による強靱な事業基盤の確立

### 電力

- 電力事業の安定収益化への取組み
- 神戸発電所の安定稼動による収益最大の確保
  - 真岡プロジェクトの完遂、円滑な立上げ
  - 神戸プロジェクトの着実な推進

## 経営基盤の強化

### ①コーポレートガバナンスの強化

- 監査等委員会設置会社への移行
- 取締役会メンバーの見直し
- 独立社外取締役会議の新設
- 業務執行体制の強化

### ②人材確保・育成

- ダイバーシティの推進や働き方変革を通じ、安全で働きやすい職場作りに注力
- 当社グループの成長を牽引する人材の確保・育成

### ③技術開発力・ものづくり力の向上

- 主力製品の競争力強化のための差別化技術の創出
- 自動車、航空機、エネルギー分野で顧客価値を実現する製品・プロセスの創出
- 品質力や現場力の強化、データ活用による、生産基盤強化とものづくり力の底上げ

※当グループ中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページ (<http://www.kobelco.co.jp>) をご覧ください。

## 神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、右記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します。
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます。
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します。